

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

事業報告書が示す会社の姿

自然災害多発に警鐘

株主総会は毎年の決算の基準日から3カ月以内に開く必要があります。3月末が決算日の会社が多いので6月下旬が株主総会のピークです。企業は、総会に合わせて事業報告書を作成します。

「社会的責任投資(SRI)」に企業がどう取り組んでいるかを知るには、数字に表れない側面を見る必要があります。事業報告書も、その判断材料になります。書体や文字の大きさ、デザイン、グラフや図の使い方などは会社によってさまざま、読み手が理解しやすいように工夫している報告書もあれば、そうでないものもあります。

カゴメの2013年3月期の報告書は、トマトのデザインがふんだんに登場して楽しく、インパクトの強いものです。社長の写真もトマトを持っています。文字などにも赤や緑がたくさん使われていて、読んでいるだけで食欲が湧きそうです。

カゴメが個人株主を積極的に募っていることは高く評価できます。01年から「株主10万人構想」キャンペーンを始め、01年3月末に6500人余りだった個人株主は、13年には17万人以上に増えたそうです。また01年3月末に930円台だった株価は長期的に見ると上昇傾向をたどり、最近では1700円を超える日が目立ちます。

会社の全体像を知るには、報告書にある取締役や執行役員の「座談会」が役立ちます。その中で注目したのは、自然災害の発生で原材料のトマトが不足したという発言でした。

気候変動による自然災害の多発が、カゴメにとっての直接的な事業リスクであることを示していて、地球の環境問題が会社の持続可能性に関わる重要なテーマになっていることが分かります。この視点が今後、経営にどう反映されていくのか、見守っています。(株式会社グッドバンカー)